



20

さかぐら みち 酒蔵の道

兵庫県神戸市東灘区魚崎南町4～5丁目、
御影石町1丁目

神戸市は、兵庫県の県庁所在地であり、大阪湾の北岸に位置し、港を中心に発展してきた街である。古くは兵庫の水門や大輪田の泊、兵庫の津として西国路への陸海路の要衝として、さらには大陸交通の門戸として栄え現在に至っている。〔文化・観光〕神戸港、六甲・摩耶地区、須磨地区、北野・異人館街、有馬温泉、神戸まつり（5月中旬）、灘の酒蔵

灘五郷は酒造りが盛んな地域で、その酒は「灘の生一本」として全国に知られている。

神戸市には五郷のうち三郷があるが、ここをおとる道は、「酒蔵の道」として魅力あるものになっている。酒蔵の黒い坂塀にあわせた白と黒の擬石タイル舗装や白い骨材の研ぎ出し舗装、松並木や御影石の街渠・側溝など酒蔵群と調和のとれた修景整備がなされている。

また、御影郷の道と同時に改修された石屋川公園内には、かつての酒造りに使われたハネツルベが酒蔵のシンボルとして復元されている。

酒蔵の道は、毎年地元酒造家と神戸市の共催で行われる「酒蔵オリエンタリング」や「酒蔵見学会」の際、拠点として活用されている。酒蔵を訪れる人々をやさしく迎えるやすらぎとおいしいのある歩道である。

